

めざすべき将来像の方向性（案）

地域	めざすべき将来像 (現行)	見直しの方向	めざすべき将来像	
			コンセプト	テーマ別めざすべき将来像
多自然地域の集落群	つながりが育む豊かなふるさと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来訪者・移住者を誘引し、地域住民との多様なつながりによる新しい地域づくり 	新たなつながりで再生する豊かな「ふるさと」	(安) 新たな技術と人の絆で命と暮らしの安全安心が守られている
				(環) 豊かな自然が県民の憩いの場となり、食やエネルギーを育てている
				(魅) 地域資源を活かした新たな産業やライフスタイルを生み出すフロンティアとなっている
				(自) 地域住民が様々な人々と関わりを持ちながら地域経営を担っている
地方都市	個性あふれる地域の核	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資源をさらに活かす誇りあるまちの魅力の向上 ・ 周辺地域の生活の要となる都市としての拠点性向上 	個性きわだち誇りある「地域の核」	(安) 日常生活に必要な都市機能が地域住民の暮らしを支え、災害への備えが整っている
				(環) 周辺集落との相互連携により、食やエネルギーの地産地消が進み、脱炭素化した地域構造や暮らし方が確立している
				(魅) 都市の魅力や個性が磨かれ、多様な働く場や多彩な起業が地域の経済を支えている
				(自) 周辺地域や遠方の人々との多様な交流の結節点となっている
郊外住宅地	住民主体の成熟したまち	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域協議会等の多様な主体の活動による専用住宅地から、多様な機能を備えた「まち」への進化 	多様な主体が住みごたえを高めあう「まち」	(安) 都市基盤が計画的に維持管理され、あらゆる世代がまちづくりに参画し、良好な住環境の中で安心な暮らしを送っている
				(環) ゆとりある環境や整った基盤を活かしたスマートコミュニティに進化している
				(魅) まちのリノベーションや課題解決型ビジネスを通じて新たな魅力を創出している
				(自) 多様な主体や多世代が活躍、連携しながら地域を運営している
都市中心部	競い輝く連たん都市	<ul style="list-style-type: none"> ・ カーボンニュートラルやスマートシティ等の先導的な取組により兵庫を牽引 ・ 大規模災害や感染症を見据えた都市のさらなる強靱化 ・ 都市の過密解消と都市アセットの柔軟な利活用による都市アメニティのさらなる向上 	進化し続ける「ベイエリア」	(安) 大規模災害への十分な備えがあり、交通や情報ネットワークの充実した強靱な都市となっている
				(環) 脱炭素社会を先導する都市システムを備え、緑あふれたゆとりあるスマートシティとなっている
				(魅) 多様な産業・活動・人材が集積し賑わいがあふれイノベーションを生み出し続けている
				(自) 国内外に開かれた広域連携のハブエリアとなり多様な主体の連携による地域経営を通じて都市文化を発信している

<安全・安心>

住宅の耐震化が進み、災害危険箇所や災害時の避難方法が共有されるなど、集落の防災・減災対策が向上している。

eコマースが普及し、ドローン配送や移動販売により、いつでも買えて好きなときに届く利便性の高い生活を送っている。

コミュニティバスや自主運行バスなど多様な手段により、購買施設や病院などの都市機能が集積した地方都市へのアクセスが確保されている。

顔なじみによる見守りだけでなく、ICT機器やAIによる介護サービスや遠隔診療により、誰もが安心して暮らしている。

- 大都市部の自治体との連携協定による災害対応
 - 大規模災害に備えた地区ごとの防災計画の策定
- 災害時の避難計画と避難路の安全確保
 - 要援護者の把握と支援体制の整備

ICT

- 移動販売やドローン配送、eコマースの利用等、日常生活用品の調達手段の確保
- 地域コミュニティやICTによる高齢者等の見守りや介護システムの導入

<環境との共生>

地域で運営する太陽光やバイオマス発電などの創エネ施設の導入が進み、エネルギー自給の暮らしが実現し、地域内に所得や雇用が生みだされている。

営農環境や基盤が維持されるとともに、多彩な地域ブランド食材が多く生産され、近隣の都市とも連携して、地産地消のサイクルが確立している。

豊かな森や里山、水辺が保全されており、多様な生物が生息する自然に触れ、憩い、学べる場や機会が豊富にある。

- コミュニティバス等への電気自動車や燃料電池車の導入促進
- 食やエネルギーの地産地消による地域経済循環の推進

里山の保全や野生動物との共生を通じた環境学習の充実

<魅力・活力>

集落内では、古民家や空き家を活かした宿泊施設やレストランなどができ、リゾート地では、ワーケーションが行われるなど、新たな産業やサービスが拡大している。

空き家や農家を借りて移り住む人が増え、「半農半X」などの新たな暮らし方や多種多様な働き方が地域に受け入れられ定着している。

古くから住む人も自らの取組を通じて地域の良さを再発見し、地域の魅力向上に関与している。

- 田舎暮らしや農林漁業体験、楽農生活の推進とICTやSNS等を使った魅力発信
- リゾート地の遊休施設等を活用したワーケーションの推進

<自立と連携>

移住者や二地域居住者だけでなく、SNS等を通じて多様な人材がコミュニティに参画し、新たな技術やアイデアを駆使した活力ある地域づくりが広がっている。

地域住民が村祭りなどの伝統行事を子ども世代や移住者に継承している。

集落を訪れる様々な人との交流を通じて、様々な分野の担い手として成長している。

民間事業では、採算がとりにくい地域においても、住民自らが出資、運営する団体が地域の暮らしを支える取組が行われている。

- 特定地域づくり事業を活用した人手不足の解消
- クラウドファンディング等のICTを活用したまちづくりへの新たな参画・協働の推進
- 農村文化を伝える年中行事や祭りの継承
- 営農体験等の都市農村交流の促進

- 住民自らが店舗やガソリンスタンドを運営する等、地域課題の解決に向けた自主的なまちづくり活動の促進
- NPO法人や大学との連携等による集落の維持と自立への支援
- 集落間や地方都市との連携の促進
- 規模集落の今後のあり方の検討促進

・長期ビジョン(将来構想試案)
・改定に向けた主な論点・課題
・現行まちづくり基本方針

①県が自ら実施する取組
②県が町や住民等に対して行う支援等
③県が町や住民等に対して行う誘導・意識醸成
d太文字は、主にまちづくり局・住宅建築局が取り組むもの

